

太子立禮奉祝歌

(其れ北陸の  
白雪にの譜)

(一)

瑞穂の國の秋豊か

あやに尊き日の御子は

儲の君に立ちたまふ。

紫雲霞舞く千代田宮  
極みなき世の御榮に

(二)

五十鈴の流れ水清く

天皇は御手づから

授け給ふは今日の日よ。

浮ぶ月影かはらじな

壺切の劍大御子に

(三)

豊榮登る朝日かげ

蜻蛉洲根の大典を



壽ことほぐ 光ひかり 遍あまねく ちて

地に民草たみくさの歌を充つ。

天に瑞雲影しげ 滋しげく

(四)

皇靈みたまの威ふゆの尊たかければ

天あまつ日ひ嗣つぎの御み繁さか榮ねは

建國けんこく既に遠とほければ

四海しがいの波なみも静しずかにて

際はてし涯あも知しらじ天壤あまつちと。

(五)

嗚呼ああ祝いそはまし歌うたはまし

われらが聲こゑのつゞくまで

紅べにき心こゝろのもゆるまゝ

大おほ内うち山やまの 大おほ典のりを

大和やまと島しま根ねの萬よろづ歳としを。

雜誌部委員 牛原清彦

